

第1学年 国語科学習指導案

日時 令和5年10月6日(金) 5校時

児童 1学年 12名

授業者 小野寺 美和

1 単元名 じどう車の「しごと」と「つくり」を見つけて(なるほど!)じどう車ずかんをつくらう

2 学習材名 『じどう車くらべ』『じどう車ずかんをつくらう』(光村一年下)

3 単元について

児童は、「うみのかくれんぼ」で「何が」「どこに」「どのようにして」隠れているかの文章を読み、事柄の順序に気をつけて内容を捉えることを学んだ。また、その文章を読む中で、主語と述語との関係を捉えたり、重要な語や文を選び出したりすることも学んできた。

本単元では、3種類の自動車を読み比べながらその理解を深めていく学習の中で、書かれている事柄と事柄の関係と事柄を関係づける「そのために」という言葉の働きを学習する。「じどう車くらべ」は、「しごと」と「つくり」という因果関係のある二つの問いに、三つの事例が身近な順序で挙げられている説明文である。その関係に着目させながら読み進めれば、「つくり」の必然性や機能性に気づき、重要な語や文を選び出し、比べながら読むことができる学習材である。そこで、「文のひみつを見つける」という言語活動を設定し、本単元で身につけたい資質・能力の定着をねらう。

また、「じどう車ずかんをつくらう」は、既習事項を生かし文章の中の重要な語や文を選び出せば、文を構成する楽しさを味わうことができる学習材である。児童のゴールとしては、「(2年生)に、(なるほど)が伝わるじどう車ずかんを作ろう」という活動をする。そして、身についた資質・能力を共有しながら相手に伝える嬉しさを実感できるようにする。

本単元に関わる指導事項は、読むことにおいては、「ウ、文章の中の重要語や文を考えて選び出すこと。」、書くことにおいては、「イ、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」である。

指導にあたっては以下の2点に留意する。

手立て1に関わって

- ・単元のはじめに、学習のゴールを「じどう車ずかんをつくらう。」とし、どんな自動車図鑑を誰に紹介するかを子どもたちと決めることで、文章の内容や構成に興味関心をもち学習できるようにする。
- ・振り返りの視点を示し、学びの見える化(カード、図、単元の学習シートの使用)をすることで、学びの深まりが自覚できるようにする。

手立て2に関わって

- ・目的を明確にした対話的活動をすることによって、考えを確かめたり、深めたりすることができるようにする。
- ・文と写真や絵を対応させる、カードで示す、図を使う、段階や目的に応じたつなげるくん「あいうえお」を活用するなどによって、考えに気付いたり、つなげたりすることができるようにする。

4 単元の目標

- 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。[知] (2)ア
- 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。[思] C(1)ア
- ◎ 文章の中の重要語や文を考えて選び出すことができる。[思] C(1)ウ
- ◎ 事柄の順序に沿って、簡単な構成を考えることができる。[思] B(1)イ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に自分の思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力、人間性等」

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	① 「読むこと」において、事柄(説明)の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 C(1)ア ② 「読むこと」において、文章の重要な語句や文を選び出している。 C(1)ウ ③ 「書くこと」において、事柄の順序に沿って、簡単な構成を考えている。B(1)イ	①分かりやすい説明のしかたについて興味をもち、進んで文章の中の重要な語句や文を考えて選び出し、学習課題に沿って自動車図鑑を作ろうとしている。

6 単元の指導計画 (全13時間扱い)

時	学習活動	◆研究に係わる手立て・指導上の留意点	評価【 】〔方法〕
1	○知っている自動車や自分の好きな自動車について話す。 ○「じどう車くらべ」を音読し、問いの文を見つけたり、気付いたことを出し合ったりする。	・自分の好きな自動車について話したり、動画を見たりすることによって、車に対する興味・関心を高められるようにする。	
2	○学習のゴールを共有し、学習の見通しをもつ。		
3	じどう車の「しごと」と「つくり」を見つけて、(なるほど!) じどう車ずかんをつくらう  ・教師自作の「じどう車ずかん」のカードを見て、学習のゴールを確認し、単元の課題を設定する。	◆学習のゴールを共有し、どんな自動車図鑑を誰に紹介するかを児童と決めることで、文章の内容や構成に興味関心を持ち学習できるようにする。 (手立て1)	
4	○バスや乗用車の「しごと」と「つくり」について読む。	・自動車の「しごと」にサイドラインを引き、全体で「しごと」を押さえる。 ・「つくり」にサイドラインを引き、学習シートに書くことができるようにする。対話的活動を通してどのどんな「つくり」かを考えることができるようにする。	【思①】説明の順序などを考え、内容の大体を捉えているか確認する。 〔発言・記述〕
5	○トラックの「しごと」と「つくり」について読む。	・6時間目には、「つくり」は、「しごと」に関係があることを気付くことができるようにする。	【知①】「しごと」と「つくり」の関係について理解しているか確認する。 〔発言・記述〕
6	○クレーン車の「しごと」と「つくり」について読む。	◆文と写真や絵の対応させる、カードで示す、図を使う、目的に応じたつなげるくん「あいうえお」を活用するなどによって、考えに気付いたり、つなげたりすることができるようにする。 (手立て2)	【思①】「しごと」に関係がある「つくり」についての重要な語句や文を考えて選び出しているか確認する。 〔発言・記述〕
7	○「じどう車くらべ」の文のひみつを見つける。	・「しごと」は一文、「つくり」は二文、「しごと」に関係がある「つくり」であること、それをつなぐ「そのために」があることを押さえる。 ◆目的を明確にした対話的活動をすることによって、考えを確かめたり、深めたりすることができるようにする。(手だて2)	
8	○はしご車の「しごと」と「つくり」を考える。	・「しごと」は全体で押さえ、はしご車の挿絵を元に、「しごと」に合った「つくり」を考えることができるようにする。 ◆絵やカードで示す、図を使う、つなげるくん「あいうえお」を活用するなどによって、考えに気付いたり、つなげたりすることができるようにする。 (手立て2)	
9	○選んだ自動車の「しごと」を見つけたり、書くことを選んだりする。	◆振り返りの視点を示し、学びの見える化(カード、図を使う、単元の学習シートの使用)をすることで、学びの深まりが自覚できるようにする。 (手立て1)	【態①】分かりやすい説明の仕方について興味をもち、進んで文章の中の重要語や文を考えて選び出し、学習に沿って自動車図鑑を作ろうとしているか確認する。 〔発言・記述〕
10	○選んだ自動車の「つくり」について調べ、クラゲ図に書く。		
11 12	○「(なるほど!) じどう車ずかん」を作る。		
13	○「(なるほど!) じどう車ずかん」を読み、感想を伝え合う。		【思①】「しごと」、「つくり」の順序に沿って、簡単な構成を考えているか確認する。 〔発言・記述〕
時間外	○進んで、いろいろな自動車の本を読む。 ○( )に作った自動車図鑑を発表する。		

## 7 本時の指導

### (1) 目標

はしご車の資料から重要な語を選び、文を考えることができる。

### (2) 本時の評価規準

はしご車の資料から重要な語を選び、文を考えている。

具体的な子どもの姿	Bに至らせるための支援
・はしご車の資料から、「しごと」に合った「つくり」を選び、文を考えている。	・全体交流の場面で他の児童から出された「つくり」を表す言葉を板書に位置付けることで、児童が「しごと」に結び付く「つくり」を選択し、述語カードで文を考えることができるようにする。

### (3) 展開

	学習活動 ・予想される児童の反応 ＜目的＞児童と共有する対話的活動の目的	◆研究に係わる手立て・指導上の留意点 【評価】【評価方法】
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。 ①「じどう車くらべ」の文のひみつを確認する。 2 本時の学習課題を確認する。	・「じどう車くらべ」の文は、全て「しごと」が一文、「つくり」が二文の文章構成になっていること、「つくり」は、「しごと」に関係があること、「そのために」の言葉があることを確認する。
展開 35分	3 はしご車の「しごと」を考える ①はしご車の「しごと」を全体で話し合い、確認する。 4 「しごと」と「つくり」をつなぐ言葉を確認して図に書く。 5 はしご車の「つくり」を考える。 ①「つくり」の名称を確認する。 ②はしご車の資料から重要な語句を選び、「つくり」を考える。 ③はしご車の「つくり」をペアで聞き合い、「つくり」を選ぶ。＜目的：選択＞ ・わたしは、ながいホースがついていることだとおもいます。わけは、たかいところの火をけすからです。 ・ぼくは、ながいはしごがついていることだとおもいます。わけはたかいところの火をけすからです。 ・わたしは、人がのることができるバスケットがついていることだとおもいます。わけは、人をたすけるからです。 ④全体で聞き合う。 ・たかいところの火をけすから、ながいはしごはほしいとおもいます。 ⑤「つくり」の文を考える。	・高い所の火を消す仕事、高い所にいる人を助ける仕事であることを話し合って確認する。 ・はしご車の「しごと」を図に書かせる。 ・「しごと」と「つくり」をつなぐ言葉、「そのために」を確認し、「つくり」は「しごと」に関係があることを再度押さえる。 ・はしご車の大きな「つくり」の名称を確認する。 ・挿絵に○を書き、どんな「つくり」なのかを考えて図に書くことができるようにする。 ・「しごと」に合った「つくり」を選ぶことができない児童は、「つくり」のカードの中から選べるようにする。 ・対話的活動を通して「しごと」に関係がある「つくり」を考えることができるようにする。 ・なぜ、その「つくり」を選んだのか理由を話すことで、「しごと」に関係がある「つくり」ならば、いくつ選んでもよいことを確認する。 ・「つくり」を選ぶことが難しい児童は、友達の考えを聞くことにより考えることができるよう支援する。(挿絵)  ・「つくり」を選ぶことが難しい児童は、「つくり」を表す言葉を板書から選択できるようにする。  ・「～がついています。」「～があります。」「～つくってあります。」の述語カードを提示し、文を作れるようにする。 ◆絵の対応をする、カードで示す、図を使う、つなげるくん「あいうえお」を活用するなどによって、考えに気付いたり、つなげたりすることができるようにする。(手立て2)  【思】「しごと」に関係がある「つくり」についての重要な語句を選び出し、文を考えているか確認する。[発言・記述]
終 末5分	5 学習の振り返りをする。 ・できたことやよかったことを発表する。 ・振り返りをする。	◆「しごと」に合った「つくり」を選ぶことができたなど、学びの深まりが実感できるような振り返りの視点を提示する。(手立て1)
[期待する振り返りの例] ・「しごと」に関係がある「つくり」を選ぶことができた。 ・～さんのつくりの説明がなるほどと思った。 ・「なるほど！」じどう車ずかん」を作る時に、「しごと」に一番合った「つくり」を選びたい。		

(4) 板書計画

述語のカード

はしご車の  
「しごと」と「つくり」を  
書いた図

はしご車の拡大挿絵

はしご車のしごと  
○たかいところのひをけす。  
○たかいところのひとを  
たすける。

か

じごう車くらぶ